

## 解答

一

問一 深雪、茉里、千博、真吾の四人が、学校で、文化祭に展示するための年表を、おそくまでかかって完成させたこと。

問二 数ヶ月間一緒に年表作りをしていて、深雪は他の三人の意外な一面を知って驚き、親しくなって、協力して年表作りに取り組んだことが楽しかった。

問三 イ、オ  
問四 十月の朝の

(2) (1) みんなで完成させた年表が破られていたのを見つけて怒りがわき、早朝教室から出ていった人影に疑いを持って追いかけたところ、見覚えのある髪どめ用のピンが落ちていたため、このピンの持ち主が年表を破ったのではないかと思ったから。

年表を破ったのは栗坂美希だということを確認するため。

問五

問六 ウ 年表を破いたことは、泣いて許されるようなことではないという怒りとくやしさをこらえている気持ち。

問七

年表を破いてしまっていたの。

問八

(「年表作成第二弾」という案に) 賛成 (する気持ち)。

問九

深雪は、年表を破いた美希を問い詰め、怒りをぶつけることだけを考えていたのに対し、茉里や真吾たちは、美希を許し、もう一度年表を作り直そうという前向きな気持ちを持っていたから。

問十

1 オ 2 ア

問十一

ウ

問十二

ア くちよう

イ 提案

ウ 合唱

エ 現 (れた)

オ 窓

二

① ア

暖 イ 温

② ア

並行 イ 平行

③ ア

週刊 イ 習慣

## 解説

一

問十

深雪は、「破られた年表を見つけた時、終わったと思った。・・怒りがあった。・・怒りをぶつけることだけを考えていたような気がする。」とあるが、「茉里のように、美希を許すことも、真吾のようにもう一度、作り直すことも、考えもしなかった。かっこいいな。ふいにそう感じた。」とあります。